

令和8年度 京都府立嵯峨野高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◇ 「和敬」・「自彊」・「飛翔」を教育の柱に据え、志を持って人生を主体的に生きる生徒を育て、世界のさまざまな分野でリーダーとして貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>◇ 「ほんまもん」の学びに出会い、一人一人が活躍できる学校を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの本質を知り幅広い教養を身につける授業を通して、未来へ続く学びの礎を築く。 ・フィールドワーク、実験、調査などを活用したラボ活動（スーパーサイエンスラボ、アカデミックラボ）を通して、課題設定・課題解決能力を育む。 ・海外連携校や留学生との国際交流を通して、多様な価値観に触れ、グローバルな視野と実践的英語力を育む。 ・生徒が中心となって取り組む学校行事、部活動を通して、豊かな人間性や協働性、リーダーシップを育む。 <p>◇ 嵯峨野GLIの実現を目指す。</p> <p>嵯峨野高校の教育を通して、志をもって主体的に社会とかわかり、将来、世界で活躍できるグローバル人材の育成を目指すという嵯峨野高校の教育理念。</p> <p>*嵯峨野GLI：嵯峨野グローバルリーダーシップイニシアティブの略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールポリシーに基づき、日々の授業の充実を図るとともに、本校の特色ある取組（SSH事業、ラボ活動、グローバル教育等）を分掌・教科間で連携して推進することができた。また、一人1台端末については、関係教職員の創意工夫により年度早期から運用することができた。大学や企業など、外部との連携も深めながら、より質の高い「ほんまもん」の学びの実現を目指す。 ・教職員の短時間での研修機会を増やし、ICTや生成AIの活用、探究活動の進め方や評価方法などについて情報共有を進めることができた。進路実現については各分掌・教科が連携して丁寧な指導を継続することができた。特に、卒業生によるキャリア講話は生徒の進路意識を高めるうえで大きな効果があった。今後も生徒が高い目標を掲げてその実現に向かえるよう、共通テストや総合型選抜・学校推薦型選抜等の分析も進め、教職員が共通の認識を持って指導にあたれる体制を整えていく。 ・あらゆる教育活動を通して人権尊重の意識を涵養するとともに、SNSや生成AIを適切に活用するための学習機会も設けた。生徒を取り巻くデジタル環境の変化が激しいため、今後も継続的な取組が必要である。一方、生徒会をはじめ、各委員会活動や学校行事、探究活動、部活動等において、生徒の主体性や新しいことに挑戦しようという意欲の高まりが見られた。今後も、生徒の主体性を尊重しつつ、丁寧な意見交換を通して、適切に判断し行動できる力を育成していく。 ・個々の生徒の状況を踏まえ、関係機関などとも連携しながら教育支援を丁寧に行うことができた。環境美化や感染症予防については、さらに意識を高めていくための取組が必要である。すべての生徒が自己肯定感をもち、心身両面において健やかに学校生活が送れるよう、今後も継続してサポートしていく必要がある。 ・学校説明会やSNSを通じて、スクールポリシーや特色ある教育内容の発信に努めたことにより、本校の教育を理解したうえで志願してくれる受検生が増えている。また、ラボ活動や部活動を通して、地域や大学・企業と関わる機会も増えてきている。本校の魅力をさらに広く伝えられるよう、今後も広報や発信の在り方の創意工夫に努める。 ・AEDを追加設置するとともに救命講習会を行い、教職員の安全と危機管理意識の向上に努めた。今後も状況に応じて適切な対応をし、安心安全な学習環境の整備につなげていく必要がある。また、施設設備については、適切に更新や整備を行っているが、老朽化の進行にともない、日頃からの安全点検と情報の共有が一層必要である。 ・学校図書館においては、図書委員と共に様々な企画やイベントを活発に行い、探究活動における活用も進んだ。読書への関心を高め、生徒の来館や利用の促進につなげていきたい。 ・教職員の働き方改革の一環として、完全下校の一部見直し等の業務改善により、時間外総勤務時間の削減において一定の成果が見られた。業務の見直しに引き続き取り組むとともに、ICTの活用等を通して、働きがいを感じながらも心身共に健康に働ける環境作りに努めていく。 	<ol style="list-style-type: none"> 令和9年度入学生からの学科改編に向けて 中学生や保護者が安心して本校を志願できるよう、学科改編や新しい選抜制度について丁寧な説明と発信に努める。また、学科改編により本校の学びの特色がさらに高まるよう、教育課程の見直しや様々な教育活動の充実を進める。 魅力ある学校づくり 主体的に学び続ける生徒を育てるため、授業を柱としつつ地域や外部機関との連携も強め、より質の高い「ほんまもん」の学びの提供に努める。 組織とその運営 分掌間や教科間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進するとともに、様々な視点からの危機管理意識を高め、安心安全な教育環境の構築に努める。 学習と進路指導 生徒が自己の将来に対する明確なビジョンと高い目標を持ち、その実現に向けて最後まで粘り強く取り組むことができるよう、意識を高める働きかけや必要な情報の提供など、時機をとらえた指導に努める。 生徒指導と特別活動 人権尊重の意識や、挨拶・マナー等の規範意識を向上させるとともに、多様な価値観を受け入れ、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動や部活動を通して、主体的・協働的に行動できる人材を育成し、自立した活気ある生徒集団を育てる。 健康安全と環境美化 すべての生徒が心身両面において健やかな学校生活が送れるようにサポートする。また、環境美化意識を高め、学習環境の維持や校内美化に努める。 学校図書館の活用 学校図書館の機能や役割の充実を進め、生徒の読書活動や探究活動をさらに活発なものとする。

令和8年度 学校経営計画（計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策
令和9年度入学生からの学科改編に向けて	中学生や保護者が安心して本校を志願できるよう、学科改編や新しい選抜制度について丁寧な説明と発信に努める。また、学科改編により本校の学びの特色がさらに高まるよう、教育課程の見直しや様々な教育活動の充実を進める。	学科改編や新しい選抜制度についての理解が深まるように、広報資料や学校説明会などにおいて工夫ある発信を行う。
		学校の魅力や特色を伝える最も有効な方法として、学習や部活動、学校行事等に意欲的に取り組む在校生の姿や、様々な分野で活躍する卒業生の様子を積極的に発信する。
		学科改編に向けた学校運営上の課題の把握や改善を進めるとともに、スーパーサイエンスハイスクールの次期申請も見据え、教育課程の見直しなど教育活動のさらなる充実を目指す。
魅力ある学校づくり	主体的に学び続ける生徒を育てるため、授業を柱としつつ地域や外部機関との連携も強め、より質の高い「ほんまもん」の学びの提供に努める。	大学や企業・地域との交流や、卒業生との連携により、生徒が「ほんまもん」の学びと出会うための特別講義やフィールドワークなどの機会を充実させる。
		探究活動において、生徒自身が探究の成果だけでなく学びの過程や試行錯誤した経験などにも意味や価値を見出せるようにするための評価や支援を行う。
		海外連携校・留学生等との国際交流や海外研修を通じて、異なる価値観や文化背景に触れる機会を充実させる。
		目的や場面に応じたICT機器や生成AIの活用も含め、より質の高い授業の実現に向けた研修を行う。
組織とその運営	分掌間や教科間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進するとともに、様々な視点からの危機管理意識を高め、安心安全な教育環境の構築に努める。	各種行事や取組について、担当分掌内で引き継ぎや情報共有を適切に行うとともに、関係分掌間の連携を密にし、円滑な実施に向けて丁寧な事前調整を行う。
		各種行事や取組について、生徒の安全確保や教育的中立性の視点からの点検・見直しを行う。
		生徒の日常の様子に目を配り、心身の健康状態等を的確に把握するとともに、必要に応じて関係分掌や管理職と迅速に情報共有し、組織として支援や対応に努める。
		情報管理マニュアルや複数による点検等の徹底により、個人情報の保護や適正な管理に努める。
		組織として危機管理に努める校内体制を構築するとともに、学校施設・設備については委託業者による法定点検や校内自主点検などを通じて迅速に保守・修繕を行う。

学習と進路指導	生徒が自己の将来に対する明確なビジョンと高い目標を持ち、その実現に向けて最後まで粘り強く取り組むことができるよう、意識を高める働きかけや必要な情報の提供など、時機をとらえた指導に努める。	生徒の学力実態についての分析結果を教職員全体で共有し、早期に課題を把握して確実に学力を向上させる授業改善に努める。
		生徒が自らの将来像を描くための機会として、最先端の研究や企業活動の現場に触れることができる特別講義やサマーセミナー等のフィールドワークを充実させる。
		ホームルーム活動や面談等を通じて、生徒が明確な進路目標を確立し、その達成に向けて不断の努力を継続できるよう支援するとともに、進路決定に向けて最後までやり抜く集団作りに努める。
		大学入試に関する情報収集に努め、時機を逃すことなく生徒や保護者への提供を行う。
生徒指導と特別活動	人権尊重の意識や、挨拶・マナー等の規範意識を向上させるとともに、多様な価値観を受け入れ、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動や部活動を通して、主体的・協働的に行動できる人材を育成し、自立した活気ある生徒集団を育てる。	「人権三法」の確実な理解を土台に、基本的人権を尊重する心を育み、人権問題を直視し、解決に取り組む姿勢を育成する。また、多様性を尊重する意識と協調性のさらなる向上を目指し、系統的な人権学習を実施する。
		道路交通法の改正について内容を周知すると共に、自転車通学者に対して交通安全講習を行うなど、年間を通じて交通ルールやマナーについての啓発や注意喚起を行う。
		規範意識の向上や基本的生活習慣の確立の意義を生徒自身が理解して主体的に取り組むよう、生徒との対話を重視するとともに、教職員全員が認識を共有して指導を行う。
		あらゆる教育活動を通して、自己有用感、自他を尊重する態度を涵養し、切磋琢磨する生徒集団の育成に努める。
健康安全と環境美化	すべての生徒が心身両面において健やかな学校生活を送れるようにサポートする。また、環境美化意識を高め、学習環境の維持や校内美化に努める。	生徒が心身ともに健康で充実した学校生活を送れるよう丁寧な支援を行うとともに、必要な生徒に対しては、受験時や進学・就職後にも適切な配慮がなされるよう関係機関との連携に努める。
		教室の換気や手洗いの励行など、生徒の感染症予防対策への意識を持続させる。また、空気検査やCO2モニターを活用し、学習環境を整える取組に努める。
		清掃活動や保健美化委員会の活動を通して校内美化に関する意識をより高め、学校全体で、節電、ゴミの分別と減量、美化意識の向上につながる取組を実施する。
学校図書館の活用	学校図書館の機能や役割の充実を進め、生徒の読書活動や探究活動をさらに活発なものとする。	図書館と各教科、分掌が連携して、図書資料等の整理・充実やICT機器の活用に努め、探究活動や学校行事の支援及び言語活動の充実を図る。
		各種広報や企画展示等を通して図書館の積極的利用を促し、生徒の自発的・主体的な読書習慣の形成に努める。
		教科指導や研究活動に関する資料や情報の収集に努めるとともに、図書の整備や情報提供等、教職員へのサポート機能の充実を図る。